

タンチョウはいま

一時は絶滅の一步手前までに減ったタンチョウも、地元の人の保護活動によって、現在1,800羽以上に増えました。しかし、生息環境の悪化は今も進んでおり、いまだに絶滅のおそれのある生物です。



Information

施設概要

- 敷地面積／約7万2,000平方メートル。
- 建物／展示棟約1,200平方メートル。研究棟約300平方メートル。野外展示施設約6,000平方メートル。ツルセンターの敷地内に公園と道の駅駐車場があり、ピクニックも楽しめます。
- 開館時間／9：00～17：00
- 休館日／年中無休

入館料 (阿寒国際ツルセンター／タンチョウ観察センター)

	区分	個人	団体(15名以上)	年間券
共通券	大人 (高校生以上)	480円	350円	3,620円
	小人 (小・中学生)	250円	180円	1,810円

■タンチョウ観察センター

- 開館時間／8：30～16：30 (11～1月は16：00まで)
- 開館期間／11月1日から3月31日
- 休館日／期間中無休

第一種動物取扱業者標識	
①氏名または名称	釧路市長 蝦名 大也
②事業所の名称	釧路市阿寒国際ツルセンター
③事業所の所在地	釧路市阿寒町上阿寒23線40番
④第一種動物取扱業の種別	展示
⑤登録番号	北海道第130950065号
⑥登録年月日	平成22年(2010年)3月31日
⑦有効期間の末日	令和7年(2025年)3月30日
⑧当物取扱責任者	吉野 智生

AKAN
international
CRANE
CENTER



阿寒国際ツルセンター [グルス]

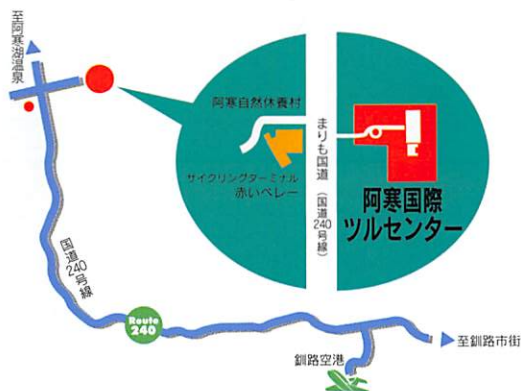
阿寒国際ツルセンターの愛称「グルス」は学名でツルという意味で、公募により決められました。



〒085-0245 北海道釧路市阿寒町上阿寒23線40番地
TEL(0154)66-4011
FAX(0154)66-4022

交通機関

- 釧路空港から車で20分
 - 釧路駅からバス(阿寒湖温泉行き)で60分
 - 阿寒湖温泉から車で40分
- ※バス停「丹頂の里」下車徒歩2分



阿寒国際ツルセンター

[グルス]

AKAN
international
CRANE
CENTER



案内

タンチョウって？

世界には15種のツルがありますが、そのうち11種は絶滅するおそれがあるといわれています。日本でも主に3種のツル（ナベツル・マナツル・タンチョウ）が見られますが、日本に一年中いて子育てするのはタンチョウだけです。現在、日本のタンチョウは北海道東部にのみ住んでいます。江戸時代までは各地で観察されましたが、明治時代以後、狩猟や開発で数が減り、一時は絶滅したといわれていました。

大正時代にその姿がたびたび確認され、現在は特別天然記念物として保護されています。

タンチョウをまもる！

冬にタンチョウのエサ不足を補うため、北海道東部の各地で人工給餌が行われています。これによって冬のエサ不足の心配が減りました。しかし、ツルが子育てするには広い湿原が必要で、また寒い冬を越すためには凍らない川が必要です。しかし、埋め立てや開発などにより、ツルにとって好ましい環境はどんどん失われています。湿原や河川などの自然を守っていくことがツルを守ることになるのです。また、タンチョウは神経質な鳥です。おどかしたり、タンチョウが住むところに、ずかずか入っていくことが必要です。

阿寒国際ツルセンターとは？

阿寒町はタンチョウの越冬地として、また人工給餌発祥の地として知られ、古くからタンチョウの保護に携わってきました。阿寒国際ツルセンターはタンチョウの生態や行動などの基本的な研究を行なって、タンチョウの保護に役立て、さらにその成果を広く知らせていくための新しい施設です。センターにはツルの生活や習性、からだのしくみなどをわかりやすく解説した展示コーナーや、いきいきとしたツルの姿を伝える映像コーナー、ツルに関する文献や映像資料を集めたライブラリーコーナーがあります。また、研究棟に隣接する飼育場では自然に近い状態で飼育されているタンチョウを観察できます。

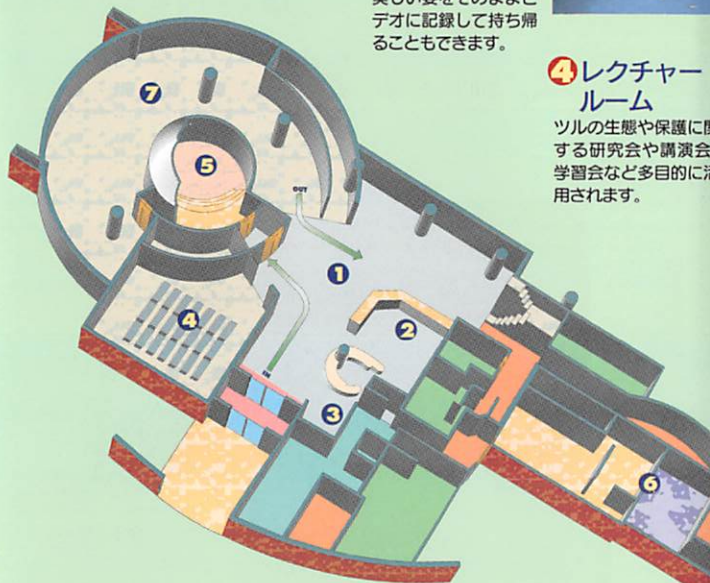
また、レクチャー室でミニ講演会や学習会なども企画されています。

タンチョウの分布

繁殖地
主な越冬地



G



① エントランスホール

ツルに関する総合的な案内や休憩コーナーなどがあります。また、冬はテレビカメラを自分で操作しタンチョウの美しい姿をそのままビデオに記録して持ち帰ることもできます。



② ライブラリー

タンチョウをはじめとするツル類やその他の鳥に関する図鑑、写真集や研究論文をはじめ、国内外の文献や映像資料を集め、自由に閲覧できます。



③ ミュージアムショップ

ツルに関する学習資料や絵はがきなどを販売するコーナーです。

④ レクチャールーム

ツルの生態や保護に関する研究会や講演会、学習会など多目的に活用されます。



⑤ 映像コーナー

タンチョウの四季の姿やその生活を15分にまとめたオリジナルの映像を200インチの大画面で紹介。タンチョウの様子が生々しく描かれています。



⑥ 研究棟

専門の研究者がタンチョウの生態や行動、生理などを研究しています。ときにはふ化の様子なども、マッシュミラー越しにこっそり見学することができます。



⑧ 野外飼育場

屋外には3タイプの飼育ケージがあります。自然な状態に近いタンチョウの姿を1年中見ることが出来ます。



⑦ 展示コーナー

パネルや映像・フォトCDなどを使ってタンチョウの生活や生態、人のかかわりなどを紹介しています。また、ツルについての情報やコンピュータクイズなども用意されています。



分館：タンチョウ観察センター

展示・研究棟の北側には、1977年に開設されたタンチョウ観察センターがあります。タンチョウ観察センターは、ツルセンターの分館となりますが、いままでと同様に11月から3月のあいだ、野外でツルを見たい人や写真撮影のために無休で開館します。給餌場に集まる野生の優雅なタンチョウの舞姿を250羽以上観察することができます。



皇太子殿下御歌碑

平成3年にタンチョウの里を御訪問された皇太子殿下は、雪原に舞う優雅な鶴の群を観察された深い印象を御歌にされ、平成5年の歌会始めの儀において朗詠されました。阿寒国際ツルセンターの完成を記念して、御歌を永く保存するために歌碑を建立しました。揮毫は札幌市在住の書家加藤秋霜先生にお願いいたしました。

タンチョウ愛護発祥の碑

この上阿寒で農業を営む山崎定次郎さんが、昭和25年に初めて人工給餌に成功して以来、阿寒町では沢山の人がタンチョウ愛護に尽くしてきました。その人々を讃え、万葉集の研究者で文化功労者の犬養孝先生に揮毫していただき、タンチョウ愛護発祥の碑と萬葉歌碑を建立しました。